

4 子どもの人権（問7～問8）

4では、子どもの人権について問題点と擁護に必要なことを尋ねています。

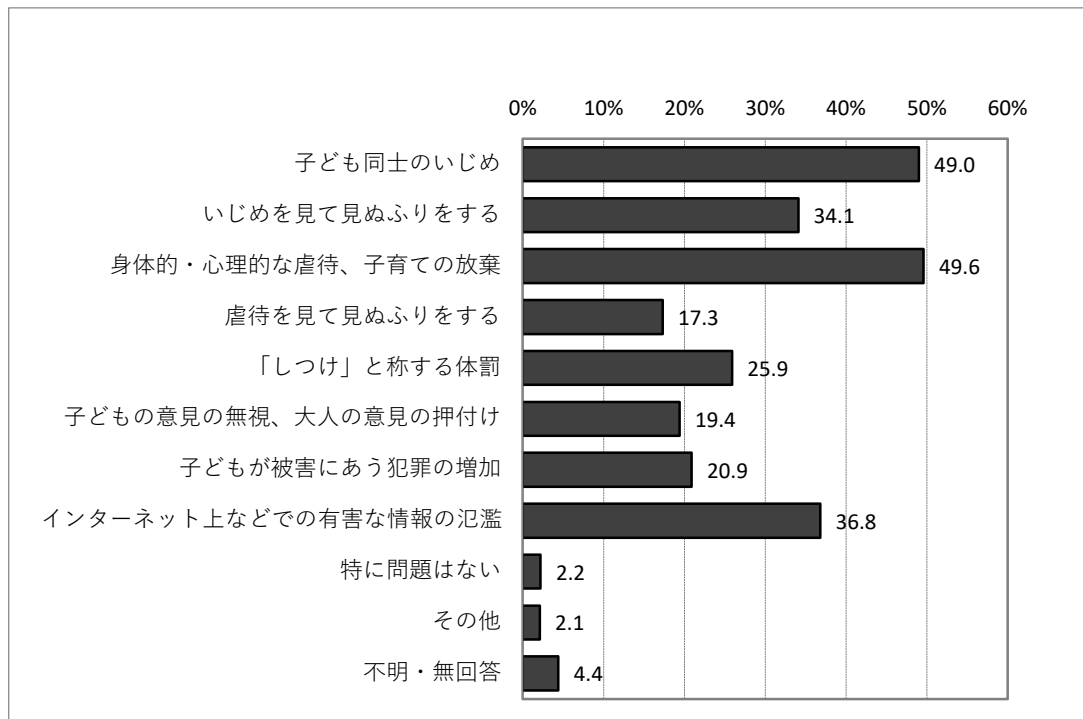
問7 子どもの人権に関して特に問題があると思うこと

複数回答（3つまで）

クロス集計：性別、年齢

「身体的・心理的な虐待、子育ての放棄」が49.6%と最も高く、次いで「子ども同士のいじめ」が49.0%、「インターネット上などでの有害な情報の氾濫」が36.8%となっています。「その他」としては貧困、学校での人権教育が不十分であること、子どもが加害者になる犯罪が発生していることなどが挙げられています。（図表4－1）

図表4－1



【性別によるクロス集計】

性別に関わらず全体的な傾向は概ね同じです。一方、「いじめを見て見ぬふりをする」は男性のみ、「インターネット上などでの有害な情報の氾濫」は女性のみ上位3項目に入っています。(図表4-2)

図表4-2

上段：度数 下段：%	合計	子ども同士のいじめ	いじめを見て見ぬふりをする	身体的・心理的な虐待、子育ての放棄	虐待を見て見ぬふりをする	「しつけ」と称する体罰	子どもの意見の無視、大人の意見の押付け	子どもが被害にあう犯罪の増加	インターネット上などでの有害な情報の氾濫	特に問題はない	その他	不明・無回答
男性	413 100.0	200 48.4	153 37.0	190 46.0	71 17.2	105 25.4	80 19.4	76 18.4	149 36.1	13 3.1	13 3.1	17 4.1
女性	476 100.0	237 49.8	152 31.9	252 52.9	85 17.9	127 26.7	94 19.7	112 23.5	181 38.0	6 1.3	6 1.3	19 4.0
その他	2 100.0	1 50.0	-	2 100.0	-	1 50.0	1 50.0	-	-	-	-	-
不明・無回答	9 100.0	3 33.3	2 22.2	2 22.2	-	-	-	-	1 11.1	1 11.1	-	4 44.4

(注1) 網掛けは、各性別における上位3項目を示しています。

【年齢によるクロス集計】

「いじめを見て見ぬふりをする」は20歳代と30歳代、70歳以上では上位3項目に入っていますが、他の年齢では入っていません。また、「インターネット上などでの有害な情報の氾濫」は40歳代以上では上位3項目に入っていますが、20歳代と30歳代では入っていません。(図表4-3)

図表4-3

上段：度数 下段：%	合計	子ども同士のいじめ	いじめを見て見ぬふりをする	身体的・心理的な虐待、子育ての放棄	虐待を見て見ぬふりをする	「しつけ」と称する体罰	子どもの意見の無視、大人の意見の押付け	子どもが被害にあう犯罪の増加	インターネット上などでの有害な情報の氾濫	特に問題はない	その他	不明・無回答
20歳未満	15 100.0	6 40.0	6 40.0	7 46.7	2 13.3	-	8 53.3	4 26.7	8 53.3	-	-	-
20歳代	92 100.0	54 58.7	32 34.8	56 60.9	24 26.1	22 23.9	30 32.6	10 10.9	28 30.4	-	-	1 1.1
30歳代	134 100.0	72 53.7	48 35.8	94 70.1	21 15.7	35 26.1	28 20.9	34 25.4	41 30.6	1 0.7	4 3.0	-
40歳代	135 100.0	64 47.4	42 31.1	69 51.1	24 17.8	21 15.6	24 17.8	42 31.1	47 34.8	3 2.2	2 1.5	8 5.9
50歳代	173 100.0	82 47.4	50 28.9	79 45.7	23 13.3	53 30.6	30 17.3	28 16.2	70 40.5	4 2.3	4 2.3	13 7.5
60歳代	205 100.0	105 51.2	77 37.6	89 43.4	36 17.6	60 29.3	34 16.6	44 21.5	84 41.0	3 1.5	8 3.9	4 2.0
70歳以上	135 100.0	55 40.7	50 37.0	50 37.0	26 19.3	41 30.4	21 15.6	26 19.3	52 38.5	6 4.4	1 0.7	10 7.4
不明・無回答	11 100.0	3 27.3	2 18.2	2 18.2	-	1 9.1	-	-	1 9.1	3 27.3	-	4 36.4

(注1) 網掛けは、各年齢における上位3項目を示しています。

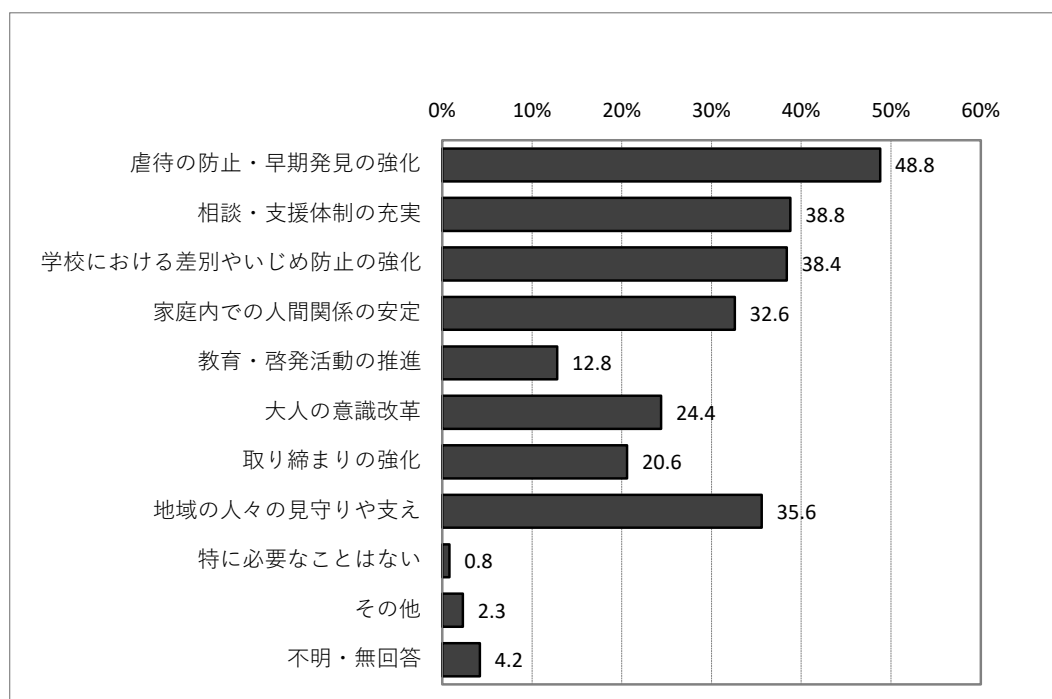
問8 子どもの人権を守るために特に必要だと思うこと

複数回答（3つまで）

クロス集計：性別、年齢

「虐待の防止・早期発見の強化」が48.8%と最も高く、次いで「相談・支援体制の充実」が38.8%、「学校におけるいじめ防止の強化」が38.4%となっています。「その他」としてはいじめの防止・取締りの強化、虐待の防止、親を対象とした教育、日頃からの心がけ・啓発などが挙げられています。（図表4－4）

図表4－4



【性別によるクロス集計】

性別に関わらず、全体的な傾向概ね同じです。一方、「相談・支援体制の充実」は女性のみ、「地域の人々の見守りや支え」は男性のみ上位3項目に入っています。(図表4－5)

図表4－5

上段：度数 下段：％	合計	虐待の防 止・早期発 見の強化	相談・支援 体制の充実	学校におけ る差別やい じめ防止の 強化	家庭内での 人間関係の 安定	教育・啓発 活動の推進	大人の意識 改革	取り締まり の強化	地域の人々 の見守りや 支え	特に必要な ことはない	その他	不明・無回 答
男性	413 100.0	196 47.5	147 35.6	164 39.7	137 33.2	59 14.3	100 24.2	85 20.6	148 35.8	3 0.7	12 2.9	15 3.6
女性	476 100.0	240 50.4	201 42.2	180 37.8	155 32.6	56 11.8	119 25.0	99 20.8	168 35.3	3 0.6	9 1.9	18 3.8
その他	2 100.0	1 50.0	1 50.0	1 50.0	-	-	-	-	2 100.0	-	-	-
不明・無回答	9 100.0	2 22.2	-	1 11.1	1 11.1	-	1 11.1	1 11.1	2 22.2	1 11.1	-	5 55.6

(注1) 網掛けは、各性別における上位3項目を示しています。

【年齢によるクロス集計】

「家庭内での人間関係の安定」は50歳代と60歳代では上位3項目に入っていますが、他の年齢では入っていません。また、「地域の人々の見守りや支え」は60歳代と70歳以上では上位3項目に入っていますが、他の年齢では入っていません。(図表4－6)

図表4－6

上段：度数 下段：％	合計	虐待の防 止・早期発 見の強化	相談・支援 体制の充実	学校におけ る差別やい じめ防止の 強化	家庭内での 人間関係の 安定	教育・啓発 活動の推進	大人の意識 改革	取り締まり の強化	地域の人々 の見守りや 支え	特に必要な ことはない	その他	不明・無回 答
20歳未満	15 100.0	8 53.3	4 26.7	6 40.0	5 33.3	4 26.7	7 46.7	5 33.3	4 26.7	-	-	-
20歳代	92 100.0	49 53.3	46 50.0	39 42.4	23 25.0	8 8.7	22 23.9	21 22.8	35 38.0	-	2 2.2	-
30歳代	134 100.0	68 50.7	54 40.3	57 42.5	48 35.8	10 7.5	42 31.3	40 29.9	41 30.6	1 0.7	5 3.7	-
40歳代	135 100.0	58 43.0	59 43.7	46 34.1	41 30.4	21 15.6	42 31.1	34 25.2	43 31.9	1 0.7	3 2.2	5 3.7
50歳代	173 100.0	82 47.4	69 39.9	55 31.8	66 38.2	21 12.1	38 22.0	33 19.1	57 32.9	2 1.2	6 3.5	7 4.0
60歳代	205 100.0	103 50.2	73 35.6	78 38.0	78 38.0	31 15.1	41 20.0	32 15.6	91 44.4	-	3 1.5	9 4.4
70歳以上	135 100.0	68 50.4	43 31.9	63 46.7	31 23.0	20 14.8	27 20.0	19 14.1	46 34.1	1 0.7	2 1.5	13 9.6
不明・無回答	11 100.0	3 27.3	1 9.1	2 18.2	1 9.1	-	1 9.1	1 9.1	3 27.3	2 18.2	-	4 36.4

(注1) 網掛けは、各年齢における上位3項目を示しています。

5 高齢者の人権（問9～問10）

5では、高齢者の人権について問題点と擁護に必要なことを尋ねています。

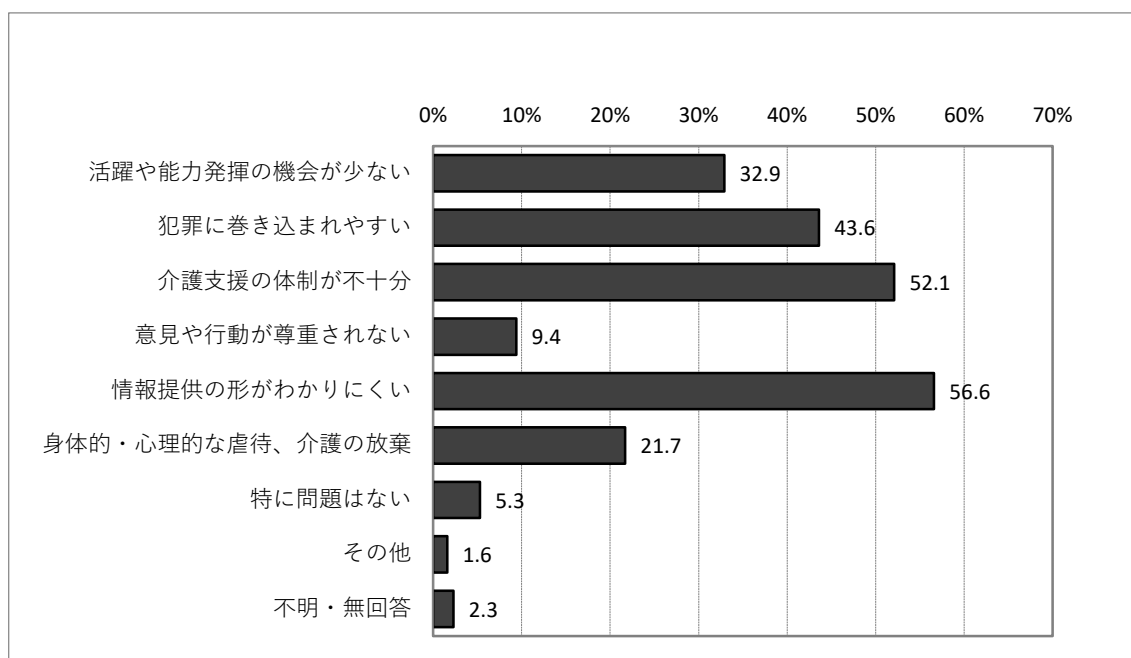
問9 高齢者の人権に関して特に問題があると思うこと

複数回答（3つまで）

クロス集計：性別、年齢

「情報提供の形がわかりにくい」が56.6%と最も高く、次いで「介護支援の体制が不十分」が52.1%、「犯罪に巻き込まれやすい」が43.6%となっています。「その他」としては日常生活における移動が不便であること、高齢者と高齢者以外の人の間で相互の思いやりがないこと、インターネットにアクセスできない高齢者が多いことなどが挙げられています。（図表5－1）

図表5－1



【性別によるクロス集計】

性別に関わらず、全体的な傾向は概ね同じです。一方、「情報提供の形がわかりにくい」は男性よりも女性の方が高い割合となっています。（図表 5－2）

図表 5－2

上段：度数 下段：%	合計	活躍や能力 発揮の機会 が少ない	犯罪に巻き 込まれやす い	介護支援の 体制が不十 分	意見や行動 が尊重され ない	情報提供の 形がわかり にくい	身体的・心 理的な虐待、介護の 放棄	特に問題は ない	その他	不明・無回 答
男性	413 100.0	140 33.9	166 40.2	222 53.8	32 7.7	219 53.0	87 21.1	24 5.8	9 2.2	9 2.2
女性	476 100.0	154 32.4	226 47.5	244 51.3	53 11.1	287 60.3	107 22.5	23 4.8	5 1.1	8 1.7
その他	2 100.0	1 50.0	- -	1 50.0	- -	- -	1 50.0	- -	- -	- -
不明・無回答	9 100.0	1 11.1	- -	2 22.2	- -	3 33.3	- -	1 11.1	- -	4 44.4

（注 1）網掛けは、各性別における上位 3 項目を示しています。

【年齢によるクロス集計】

60 歳代では「情報提供の形がわかりにくい」の割合が他の年齢に比べると高くなっています。全体としては、年齢に関わらず概ね同じ傾向です。高齢者自身とその他の年齢の回答者の認識に差はないと言えます。（図表 5－3）

図表 5－3

上段：度数 下段：%	合計	活躍や能力 発揮の機会 が少ない	犯罪に巻き 込まれやす い	介護支援の 体制が不十 分	意見や行動 が尊重され ない	情報提供の 形がわかり にくい	身体的・心 理的な虐待、介護の 放棄	特に問題は ない	その他	不明・無回 答
20歳未満	15 100.0	5 33.3	8 53.3	5 33.3	2 13.3	7 46.7	7 46.7	1 6.7	- -	- -
20歳代	92 100.0	25 27.2	54 58.7	48 52.2	9 9.8	45 48.9	23 25.0	3 3.3	2 2.2	- -
30歳代	134 100.0	43 32.1	59 44.0	75 56.0	11 8.2	73 54.5	35 26.1	8 6.0	3 2.2	1 0.7
40歳代	135 100.0	49 36.3	62 45.9	68 50.4	11 8.1	79 58.5	34 25.2	6 4.4	1 0.7	2 1.5
50歳代	173 100.0	58 33.5	73 42.2	99 57.2	14 8.1	93 53.8	40 23.1	12 6.9	2 1.2	3 1.7
60歳代	205 100.0	74 36.1	81 39.5	105 51.2	21 10.2	133 64.9	34 16.6	7 3.4	5 2.4	5 2.4
70歳以上	135 100.0	41 30.4	55 40.7	66 48.9	17 12.6	76 56.3	22 16.3	9 6.7	- -	7 5.2
不明・無回答	11 100.0	1 9.1	- -	3 27.3	- -	3 27.3	- -	2 18.2	1 9.1	3 27.3

（注 1）網掛けは、各年齢における上位 3 項目を示しています。

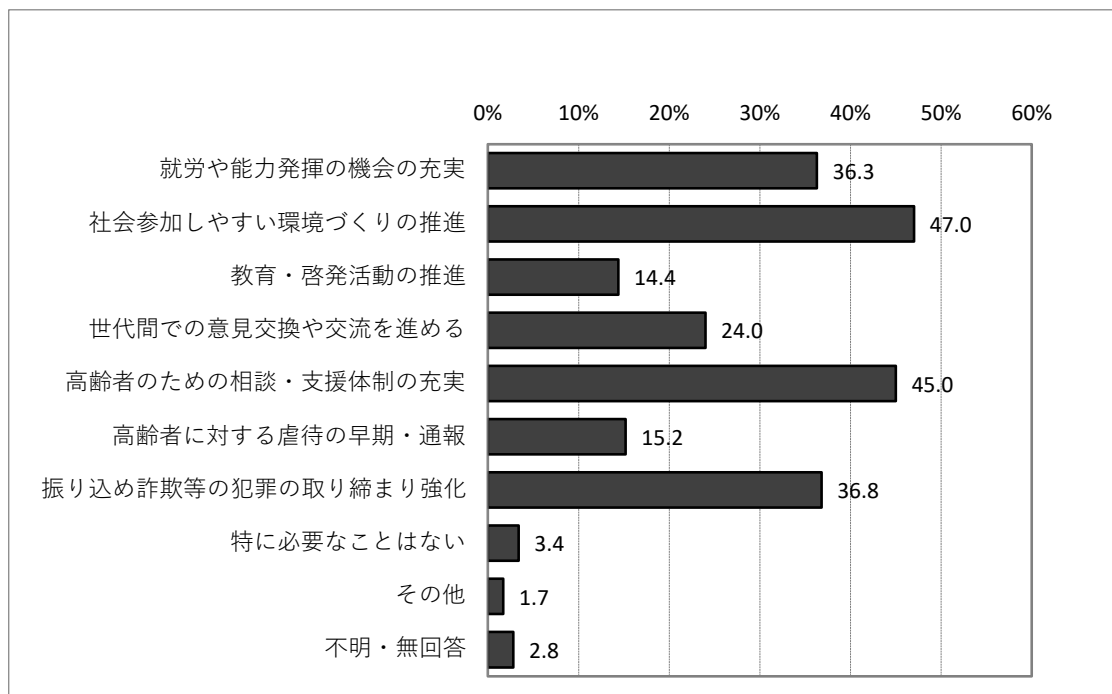
問 10 高齢者の人権を守るために特に必要だと思うこと

複数回答（3つまで）

クロス集計：性別、年齢

「社会参加しやすい環境づくりの促進」が47.0%と最も高く、次いで「高齢者のための相談・支援体制の充実」が45.0%、「振り込め詐欺等の犯罪の取り締まり強化」が36.8%となっています。「その他」としては介護に関する支援を充実させること、高齢者自身が生きがいを持つことなどが挙げられています。（図表5－4）

図表 5－4



【性別によるクロス集計】

性別に関わらず、全体的な傾向は概ね同じです。一方、「就労や能力発揮の機会の充実」は男性の上位3項目には入っていますが、女性の上位3項目には入っていません。また、「高齢者のための相談・支援体制の充実」と「振り込め詐欺等の犯罪の取り締まり強化」は男性よりも女性の方が高い割合となっています。（図表5－5）

図表5－5

上段：度数 下段：%	合計	就労や能力 発揮の機会 の充実	社会参加し やすい環境 づくりの推 進	教育・啓発 活動の推進	世代間での 意見交換や 交流を進め る	高齢者のた めの相談・ 支援体制の 充実	高齢者に対 する虐待の 早期・通報	振り込め詐 欺等の犯罪 の取り締ま り強化	特に必要な ことはない	その他	不明・無回 答
男性	413 100.0	151 36.6	189 45.8	64 15.5	106 25.7	169 40.9	56 13.6	137 33.2	21 5.1	9 2.2	10 2.4
女性	476 100.0	175 36.8	230 48.3	66 13.9	110 23.1	234 49.2	80 16.8	193 40.5	9 1.9	6 1.3	10 2.1
その他	2 100.0	- -	1 50.0	- -	- -	1 50.0	1 50.0	- -	- -	- -	- -
不明・無回答	9 100.0	1 11.1	3 33.3	- -	- -	1 11.1	- -	1 11.1	1 11.1	- -	5 55.6

（注1）網掛けは、各性別における上位3項目を示しています。

【年齢によるクロス集計】

「就労や能力発揮の機会の充実」は40歳代から60歳代では上位3項目に入っていますが、70歳以上では入っておらず、現在の高齢者の中では優先順位は高くないと考えられます。また、「振り込め詐欺等の犯罪の取り締まりの強化」は20歳代から40歳代、70歳代で上位3項目に入っており、高齢者自身とその他の年齢の回答者の両者にとって優先順位が高いと考えられます。（図表5－6）

図表5－6

上段：度数 下段：%	合計	就労や能力 発揮の機会 の充実	社会参加し やすい環境 づくりの推 進	教育・啓発 活動の推進	世代間での 意見交換や 交流を進め る	高齢者のた めの相談・ 支援体制の 充実	高齢者に対 する虐待の 早期・通報	振り込め詐 欺等の犯罪 の取り締ま り強化	特に必要な ことはない	その他	不明・無回 答
20歳未満	15 100.0	5 33.3	8 53.3	4 26.7	5 33.3	5 33.3	2 13.3	4 26.7	1 6.7	- -	- -
20歳代	92 100.0	33 35.9	43 46.7	10 10.9	25 27.2	34 37.0	19 20.7	47 51.1	1 1.1	- -	1 1.1
30歳代	134 100.0	45 33.6	57 42.5	16 11.9	36 26.9	53 39.6	25 18.7	54 40.3	8 6.0	5 3.7	1 0.7
40歳代	135 100.0	63 46.7	67 49.6	14 10.4	36 26.7	56 41.5	18 13.3	58 43.0	3 2.2	3 2.2	2 1.5
50歳代	173 100.0	67 38.7	84 48.6	25 14.5	35 20.2	75 43.4	21 12.1	60 34.7	9 5.2	2 1.2	3 1.7
60歳代	205 100.0	72 35.1	98 47.8	34 16.6	49 23.9	114 55.6	31 15.1	62 30.2	3 1.5	2 1.0	8 3.9
70歳以上	135 100.0	41 30.4	63 46.7	27 20.0	30 22.2	66 48.9	21 15.6	45 33.3	4 3.0	2 1.5	6 4.4
不明・無回答	11 100.0	1 9.1	3 27.3	- -	- -	2 18.2	- -	1 9.1	2 18.2	1 9.1	4 36.4

（注1）網掛けは、各年齢における上位3項目を示しています。

6 障害のある人の人権（問 11～問 12）

6では、障害のある人の人権について問題点と擁護に必要なことを尋ねています。

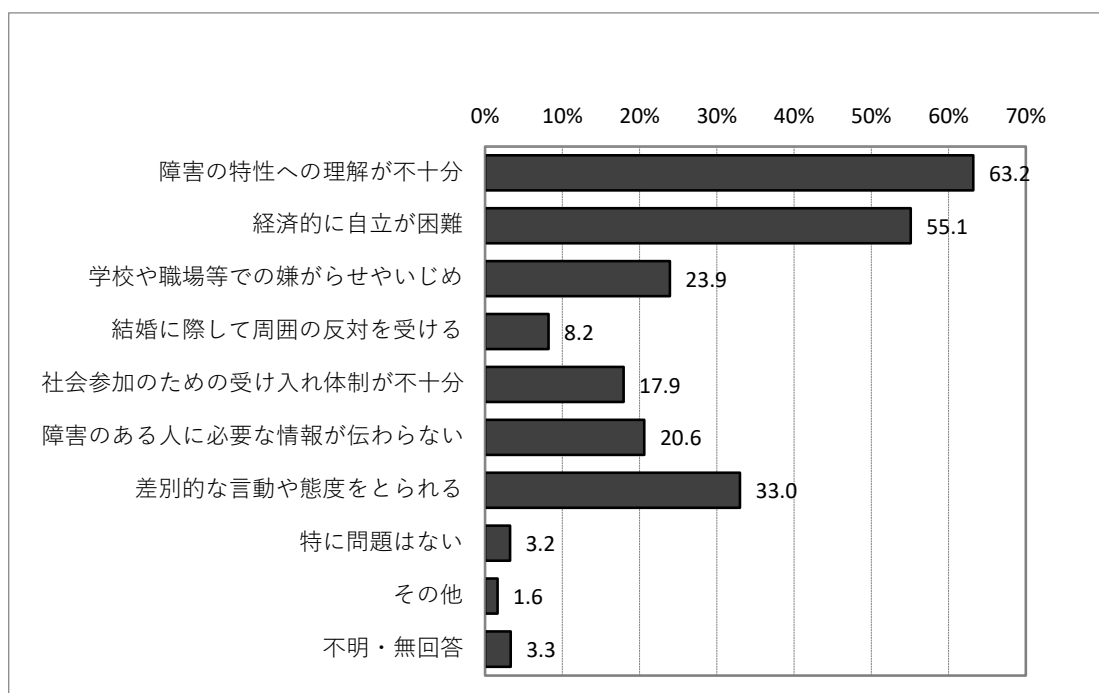
問 11 障害のある人の人権に関して特に問題があると思うこと

複数回答（3つまで）

クロス集計：性別、年齢

「障害の特性への理解が不十分」が63.2%と最も高く、次いで「経済的に自立が困難」が55.1%、「差別的な言動や態度をとられる」が33.0%となっています。「その他」については、回答者の身近に障害者がいないなどの理由でわからないという趣旨の回答が主なものとなっています。（図表6－1）

図表6－1



【性別によるクロス集計】

性別に関わらず、全体的な傾向は概ね同じです。(図表 6－2)

図表 6－2

上段：度数 下段：％	合計	障害の特性 への理解が 不十分	経済的に自 立が困難	学校や職場 等での嫌が らせやいじ め	結婚に際し て周囲の反 対を受ける	社会参加の ための受け 入れ体制が 不十分	障害のある 人に必要な 情報が伝わ らない	差別的な言 動や態度を とられる	特に問題は ない	その他	不明・無回 答
男性	413 100.0	253 61.3	244 59.1	96 23.2	40 9.7	71 17.2	83 20.1	128 31.0	15 3.6	9 2.2	12 2.9
女性	476 100.0	312 65.5	250 52.5	118 24.8	33 6.9	89 18.7	101 21.2	168 35.3	13 2.7	5 1.1	13 2.7
その他	2 100.0	1 50.0	1 50.0	1 50.0	1 50.0	- -	1 50.0	1 50.0	- -	- -	- -
不明・無回答	9 100.0	3 33.3	1 11.1	- -	- -	1 11.1	- -	- -	1 11.1	- -	5 55.6

(注 1) 網掛けは、各性別における上位 3 項目を示しています。

【年齢によるクロス集計】

20 歳代と 40 歳代では「障害の特性への理解が不十分」の割合が他の年齢に比べると高くなっています。また、70 歳以上では「障害のある人に必要な情報が伝わらない」が上位 3 項目に入っていますが、他の年齢では入っていません。(図表 6－3)

図表 6－3

上段：度数 下段：％	合計	障害の特性 への理解が 不十分	経済的に自 立が困難	学校や職場 等での嫌が らせやいじ め	結婚に際し て周囲の反 対を受ける	社会参加の ための受け 入れ体制が 不十分	障害のある 人に必要な 情報が伝わ らない	差別的な言 動や態度を とられる	特に問題は ない	その他	不明・無回 答
20歳未満	15 100.0	9 60.0	6 40.0	5 33.3	3 20.0	2 13.3	3 20.0	9 60.0	- -	- -	- -
20歳代	92 100.0	68 73.9	45 48.9	34 37.0	10 10.9	14 15.2	16 17.4	43 46.7	2 2.2	1 1.1	- -
30歳代	134 100.0	89 66.4	76 56.7	42 31.3	11 8.2	18 13.4	22 16.4	60 44.8	3 2.2	4 3.0	- -
40歳代	135 100.0	98 72.6	75 55.6	32 23.7	9 6.7	18 13.3	30 22.2	40 29.6	6 4.4	- -	2 1.5
50歳代	173 100.0	104 60.1	99 57.2	39 22.5	20 11.6	31 17.9	30 17.3	57 32.9	4 2.3	2 1.2	6 3.5
60歳代	205 100.0	126 61.5	117 57.1	42 20.5	10 4.9	52 25.4	49 23.9	56 27.3	4 2.0	5 2.4	9 4.4
70歳以上	135 100.0	70 51.9	76 56.3	21 15.6	11 8.1	25 18.5	34 25.2	32 23.7	8 5.9	2 1.5	9 6.7
不明・無回答	11 100.0	5 45.5	2 18.2	- -	- -	1 9.1	1 9.1	- -	2 18.2	- -	4 36.4

(注 1) 網掛けは、各年齢における上位 3 項目を示しています。

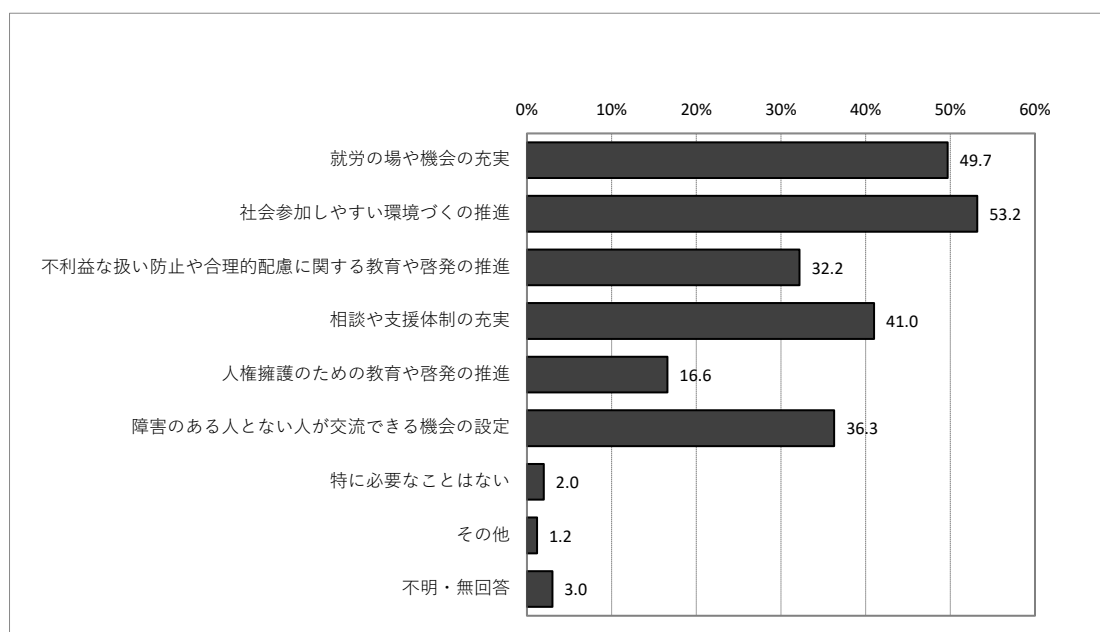
問 12 障害のある人の人権を守るために特に必要だと思うこと

複数回答（3つまで）

クロス集計：性別、年齢

「社会参加しやすい環境づくりの推進」が53.2%と最も高く、次いで「就労の場や機会の充実」が49.7%、「相談や支援体制の充実」が41.0%となっています。「その他」としては障害についての正しい理解を促進すること、障害者が入所・通所できる施設を増やすことなどが挙げられています。（図表6－4）

図表 6－4



【性別によるクロス集計】

性別に関わらず全体的な傾向は概ね同じです。(図表 6－5)

図表 6－5

上段：度数 下段：%	合計	就労の場や 機会の充実	社会参加し やすい環境 づくりの推進	不利益な扱い防止や合理的配慮に関する教育や啓発の推進	相談や支援体制の充実	人権擁護のための教育や啓発の推進	障害のある人となない人が交流できる機会の設定	特に必要なことは無い	その他	不明・無回答
男性	413 100.0	208 50.4	221 53.5	136 32.9	159 38.5	73 17.7	142 34.4	10 2.4	6 1.5	12 2.9
女性	476 100.0	236 49.6	253 53.2	153 32.1	209 43.9	76 16.0	183 38.4	7 1.5	5 1.1	10 2.1
その他	2 100.0	1 50.0	2 100.0	- -	1 50.0	- -	1 50.0	- -	- -	- -
不明・無回答	9 100.0	2 22.2	3 33.3	1 11.1	- -	- -	1 11.1	1 11.1	- -	5 55.6

(注 1) 網掛けは、各性別における上位 3 項目を示しています。

【年齢によるクロス集計】

20 歳代では「不利益な扱い防止や合理的配慮に関する教育や啓発の推進」の割合が他の年齢に比べると高いです。また、「就労の場や機会の充実」は 20 歳代では上位 3 項目に入っていませんが、その他の年齢では入っています。(図表 6－6)

図表 6－6

上段：度数 下段：%	合計	就労の場や 機会の充実	社会参加し やすい環境 づくりの推進	不利益な扱い防止や合理的配慮に関する教育や啓発の推進	相談や支援体制の充実	人権擁護のための教育や啓発の推進	障害のある人となない人が交流できる機会の設定	特に必要なことは無い	その他	不明・無回答
20歳未満	15 100.0	6 40.0	10 66.7	6 40.0	5 33.3	4 26.7	5 33.3	- -	- -	- -
20歳代	92 100.0	40 43.5	49 53.3	43 46.7	41 44.6	19 20.7	38 41.3	- -	- -	1 1.1
30歳代	134 100.0	62 46.3	78 58.2	47 35.1	56 41.8	28 20.9	46 34.3	1 0.7	2 1.5	1 0.7
40歳代	135 100.0	67 49.6	74 54.8	43 31.9	53 39.3	23 17.0	39 28.9	5 3.7	- -	5 3.7
50歳代	173 100.0	101 58.4	83 48.0	46 26.6	67 38.7	22 12.7	61 35.3	4 2.3	4 2.3	4 2.3
60歳代	205 100.0	96 46.8	108 52.7	68 33.2	90 43.9	36 17.6	83 40.5	2 1.0	3 1.5	5 2.4
70歳以上	135 100.0	71 52.6	73 54.1	36 26.7	56 41.5	17 12.6	54 40.0	4 3.0	2 1.5	7 5.2
不明・無回答	11 100.0	4 36.4	4 36.4	1 9.1	1 9.1	- -	1 9.1	2 18.2	- -	4 36.4

(注 1) 網掛けは、各年齢における上位 3 項目を示しています。

7 同和問題（部落差別）（問 13～問 14）

7では、部落差別が現在も存在していると思うかどうかをまず尋ねています。次に、現在も存在していると思う回答者を対象に、その原因がどこにあると思うかを尋ねています。

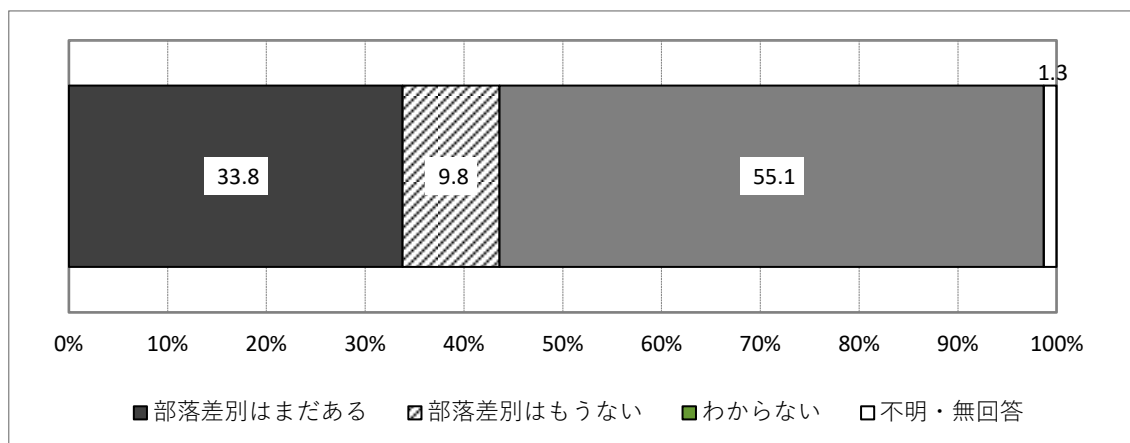
問 13 部落差別の現状についての認識

単数回答（N=900）

比較・クロス集計：2019 年度法務省調査、性別、年齢、居住歴

「わからない」の割合が 55.1%と最も高いです。また、「部落差別はまだある」は「部落差別はもうない」の 3.4 倍となっています。（図 7－1）

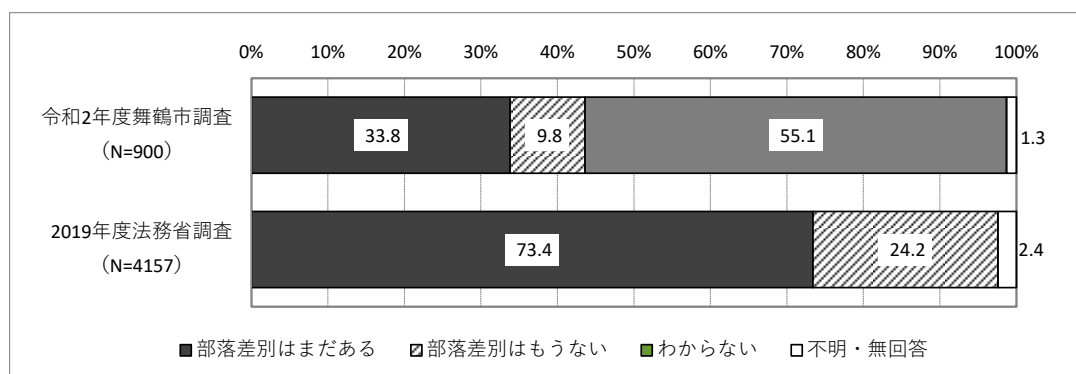
図表 7－1



【2019 年度法務省調査との比較】

法務省人権擁護局による「2019 年度 人権に関する意識調査」の結果と比較すると、同様に「部落差別はまだある」と考えている人の割合の方が高くなっています。ただし、「わからない」という選択肢は国の調査にはありません。(図表 7－2)

図表 7－2



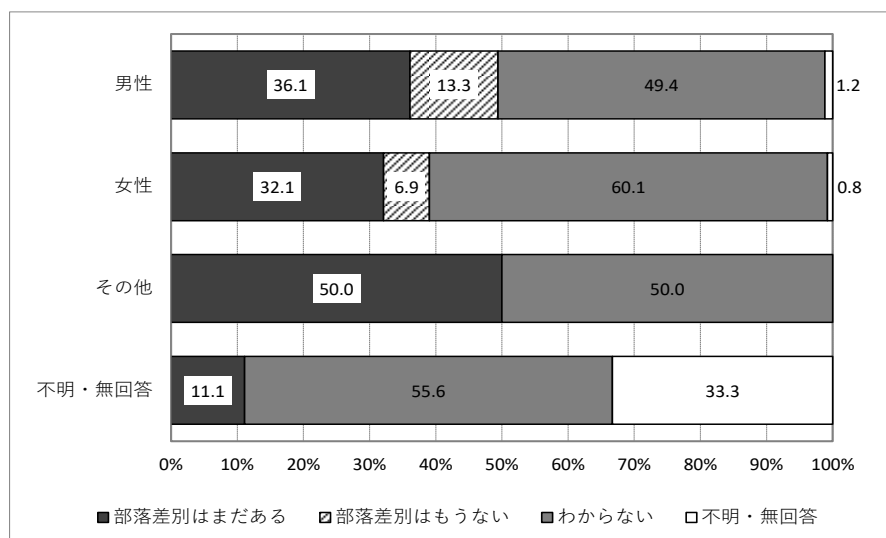
(注 1) 令和 2 年度舞鶴市調査の選択肢は「部落差別はまだある」、「部落差別はもうない」、「わからない」の 3 段階です。

(注 2) 2019 年度法務省調査の選択肢は「部落差別はまだある」、「部落差別はもうない」 2 段階です。

【性別によるクロス集計】

性別に関わらず、「わからない」の割合が最も高いです。ただし、男性よりも女性の方が「わからない」の割合が高くなっています。(図表 7－3)

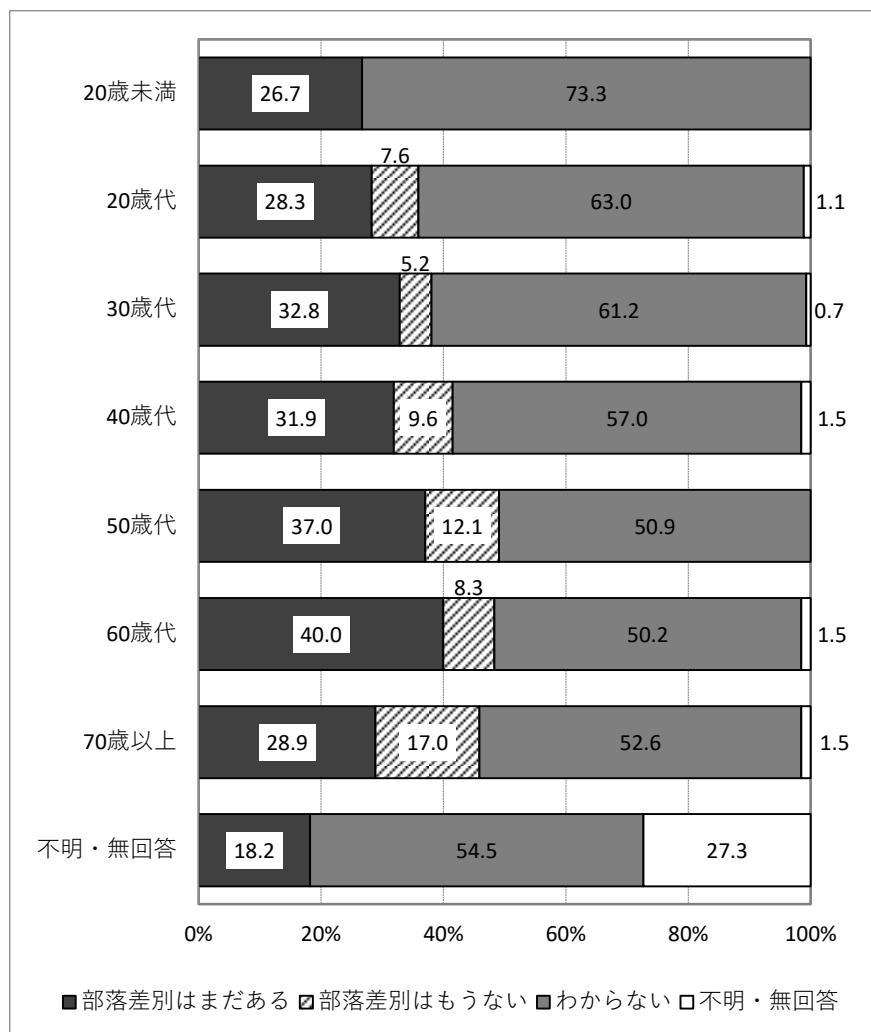
図表 7－3



【年齢によるクロス集計】

年齢に関わらず「わからない」の割合が最も高いです。一方、50歳代と60歳代では「部落差別はまだある」も約40.0%となっており、他の年齢に比べると「部落差別はまだある」の割合が高くなっています。（図表7－4）

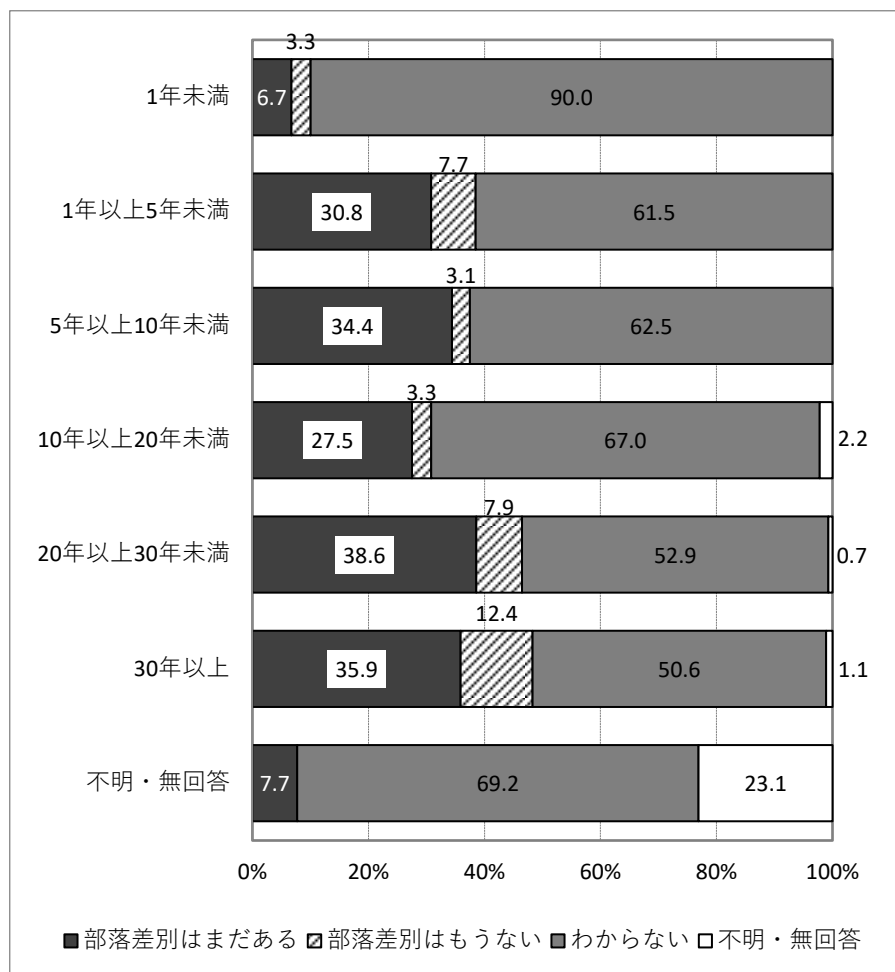
図表7－4



【居住歴によるクロス集計】

居住歴に関わらず「わからない」の割合が最も高いです。一方、20年以上と20年未満で比較すると、前者の方が「部落差別はまだある」の割合がどちらかというとい高いと言えます。(図表7－5)

図表7－5



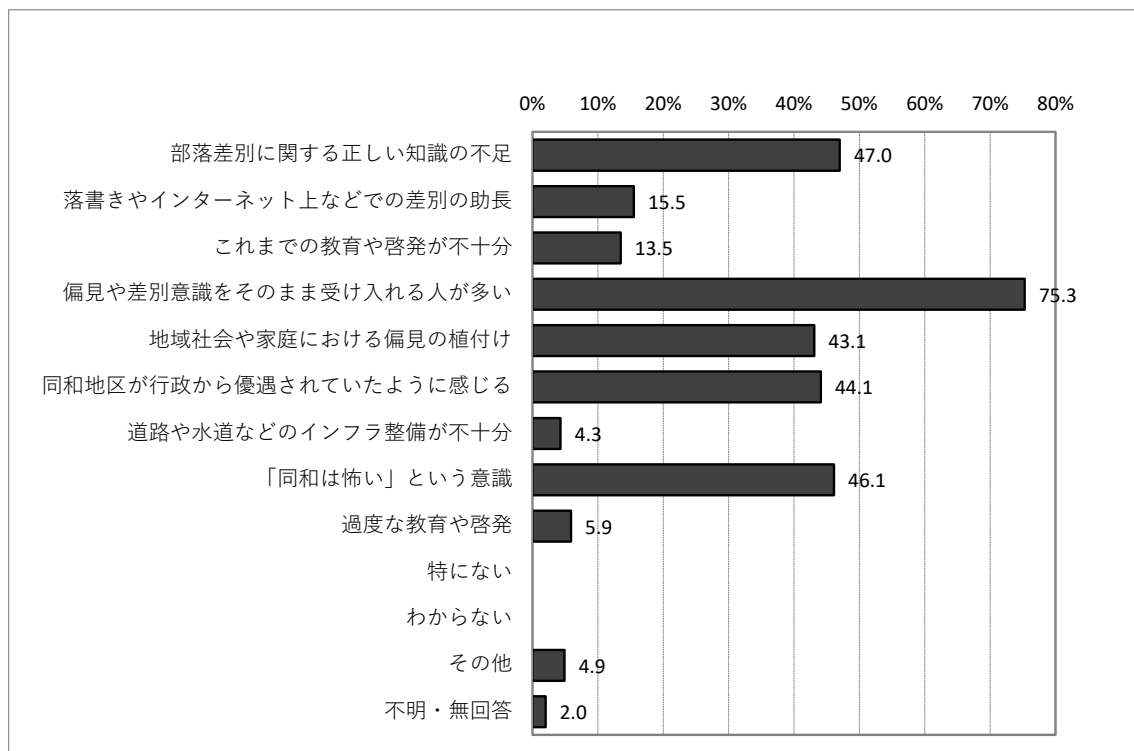
問 14 部落差別が現在も存在している原因

複数回答（問 14 の対象者：304）

比較・クロス集計：2019 年度法務省調査、性別、年齢

「差別や偏見をそのまま受け入れる人が多い」が 75.3%と最も高く、次いで「部落差別に関する正しい知識の不足」が 47.0%、「「同和は怖い」という意識」が 46.1%となっています。「その他」としては、部落差別についてわからない・知らない人が多いこと、差別や差別に対する支援を悪用・利用する人がいることなどが挙げられています。（図表 7－6）

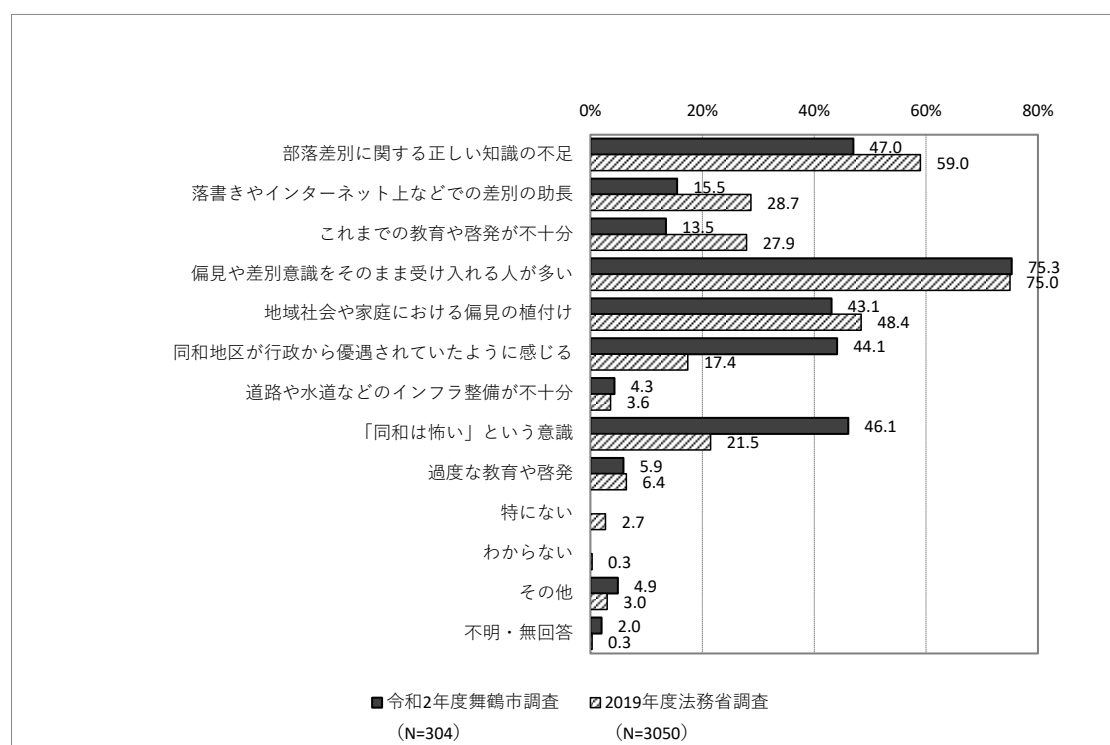
図表 7－6



【2019 年度法務省調査との比較】

法務省人権擁護局による「2019 年度 人権に関する意識調査」の結果と比較すると、「偏見や差別意識をそのまま受け入れる人が多い」や「地域社会や家庭における偏見の植付け」については概ね同様の結果となっています。一方で、母数の差が大きいため単純な比較はできませんが、「同和地区が行政から優遇されていたように感じる」と「同和は怖い」という意識については国との差が大きく、舞鶴市の方が高い割合となっています。（図表 7－7）

図表 7－7



【性別によるクロス集計】

男女ともに「偏見や差別意識をそのまま受ける人が多い」の割合が最も高く、それぞれ70%台となっています。一方、男性は「同和地区が行政から優遇されていたように感じるから」が2番目、「同和は怖い」という意識」が3番目に高いですが、これらの選択肢は女性では上位3項目には入っていません。女性は「部落差別に関する正しい知識の不足」が2番目、「地域社会や家庭における偏見の植付け」が3番目に高くなっています。(図表7-8)

図表7-8

上段：度数 下段：%	合計	部落差別に関する正しい知識の不足	落書きやインターネット上などでの差別の助長	これまでの教育や啓発が不十分	偏見や差別意識をそのまま受け入れる人が多い	地域社会や家庭における偏見の植付け	同和地区が行政から優遇されていたように感じるから
男性	149 100.0	67 45.0	27 18.1	16 10.7	108 72.5	64 43.0	76 51.0
女性	153 100.0	75 49.0	20 13.1	25 16.3	120 78.4	67 43.8	58 37.9
その他	1 100.0	1 100.0	- -	- -	1 100.0	- -	- -
不明・無回答	1 100.0	- -	- -	- -	- -	- -	- -

上段：度数 下段：%	道路や水道などのインフラ整備が不十分	「同和は怖い」という意識	過度な教育や啓発	特にない	わからない	その他	不明・無回答
男性	7 4.7	74 49.7	14 9.4	- -	- -	9 6.0	5 3.4
女性	6 3.9	65 42.5	4 2.6	- -	- -	5 3.3	1 0.7
その他	- -	- -	- -	- -	- -	- -	- -
不明・無回答	- -	1 100.0	- -	- -	- -	1 100.0	- -

(注1) 網掛けは、各性別における上位3項目を示しています。

【年齢によるクロス集計】

年齢に関わらず「偏見や差別意識をそのまま受け入れる人が多いから」、「部落差別に関する正しい知識の不足」、「地域社会や家庭における偏見の植付け」の3つが占める割合が高いです。一方、「同和地区が行政から優遇されていたように感じる」と「「同和は怖い」という意識」については、年齢が高くなるほど割合も相対的に高くなっています。（図表7－9）

図表7－9

上段：度数 下段：%	合計	部落差別に関する正しい知識の不足	落書きやインターネット上などの差別の助長	これまでの教育や啓発が不十分	偏見や差別意識をそのまま受け入れる人が多い	地域社会や家庭における偏見の植付け	同和地区が行政から優遇されていたように感じるから
20歳未満	4 100.0	3 75.0	- -	- -	2 50.0	2 50.0	- -
20歳代	26 100.0	14 53.8	6 23.1	4 15.4	22 84.6	18 69.2	1 3.8
30歳代	44 100.0	19 43.2	9 20.5	6 13.6	32 72.7	19 43.2	7 15.9
40歳代	43 100.0	16 37.2	8 18.6	8 18.6	27 62.8	14 32.6	25 58.1
50歳代	64 100.0	34 53.1	8 12.5	8 12.5	53 82.8	32 50.0	28 43.8
60歳代	82 100.0	40 48.8	12 14.6	9 11.0	60 73.2	34 41.5	46 56.1
70歳以上	39 100.0	17 43.6	4 10.3	6 15.4	33 84.6	12 30.8	26 66.7
不明・無回答	2 100.0	- -	- -	- -	- -	- -	1 50.0

上段：度数 下段：%	道路や水道などのインフラ整備が不十分	「同和は怖い」という意識	過度な教育や啓発	特にない	わからない	その他	不明・無回答
20歳未満	- -	- -	- -	- -	- -	- -	- -
20歳代	- -	9 34.6	4 15.4	- -	- -	1 3.8	- -
30歳代	5 11.4	18 40.9	1 2.3	- -	- -	5 11.4	- -
40歳代	1 2.3	27 62.8	1 2.3	- -	- -	3 7.0	- -
50歳代	3 4.7	28 43.8	3 4.7	- -	- -	3 4.7	- -
60歳代	2 2.4	39 47.6	3 3.7	- -	- -	2 2.4	6 7.3
70歳以上	2 5.1	18 46.2	6 15.4	- -	- -	- -	- -
不明・無回答	- -	1 50.0	- -	- -	- -	1 50.0	- -

（注1）網掛けは、各年齢における上位3項目を示しています。

8 外国人の人権（問 15～問 16）

8 では、外国人の人権について問題点と擁護に必要なことを尋ねています。

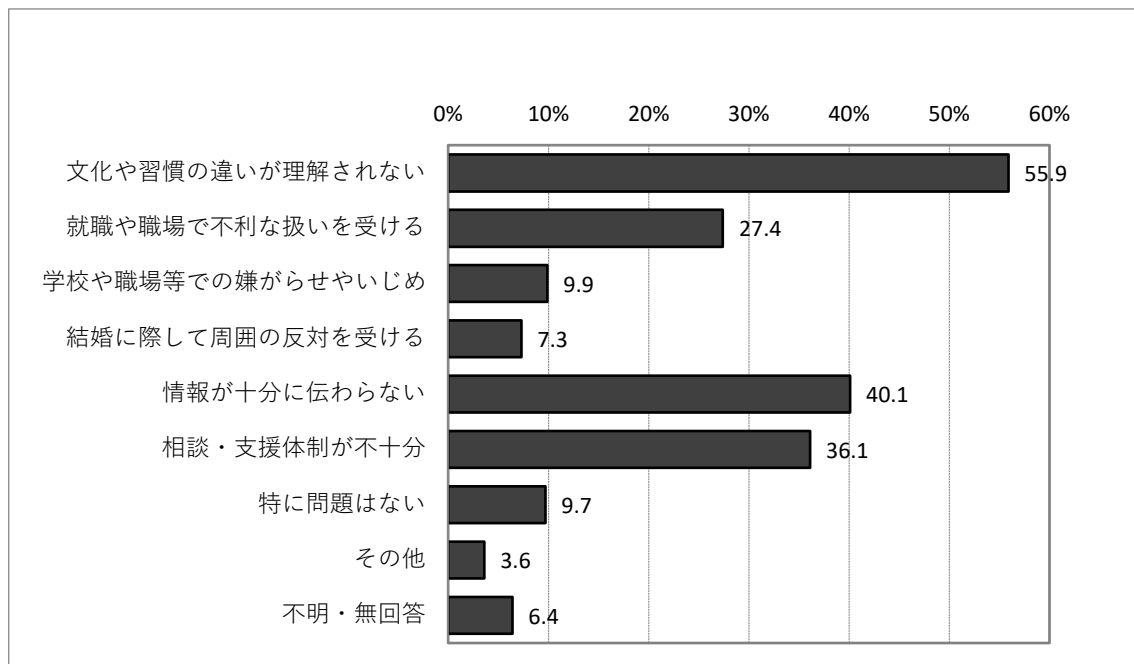
問 15 外国人の人権に関して特に問題があると思うこと

複数回答（3つまで）

クロス集計：性別、年齢

「文化や習慣の違いが理解されない」が 55.9%と最も高く、次いで「情報が十分に伝わらない」が 40.1%、「相談・支援体制が不十分」が 36.1%となっています。「その他」としては日本語が通じないこと、外国人労働者に関する制度が不十分であることなどが挙げられています。また、回答者の身近に外国人がいないなどの理由でわからないという趣旨の回答が一定数あります。（図表 8－1）

図表 8－1



【性別によるクロス集計】

性別に関わらず全体的な傾向は概ね同じです。(図表 8－2)

図表 8－2

上段：度数 下段：%	合計	文化や習慣 の違いが理 解されない	就職や職場 で不利な扱 いを受ける	学校や職場 等での嫌が らせやいじ め	結婚に際し て周囲の反 対を受ける	情報が十分 に伝わらな い	相談・支援 体制が不十 分	特に問題は ない	その他	不明・無回 答
男性	413 100.0	241 58.4	116 28.1	35 8.5	27 6.5	164 39.7	138 33.4	45 10.9	19 4.6	21 5.1
女性	476 100.0	260 54.6	129 27.1	52 10.9	39 8.2	196 41.2	187 39.3	42 8.8	13 2.7	31 6.5
その他	2 100.0	- -	1 50.0	1 50.0	- -	- -	- -	- -	- -	1 50.0
不明・無回答	9 100.0	2 22.2	1 11.1	1 11.1	- -	1 11.1	- -	- -	- -	5 55.6

(注 1) 網掛けは、各性別における上位 3 項目を示しています。

【年齢によるクロス集計】

「就職や職場で不利な扱いを受ける」は 20 歳代では上位 3 項目に入っていますが、他の年齢では入っていません。また、60 歳代では「文化や習慣の違いが理解されない」の割合が他の年齢に比べると高くなっています。(図表 8－3)

図表 8－3

上段：度数 下段：%	合計	文化や習慣 の違いが理 解されない	就職や職場 で不利な扱 いを受ける	学校や職場 等での嫌が らせやいじ め	結婚に際し て周囲の反 対を受ける	情報が十分 に伝わらな い	相談・支援 体制が不十 分	特に問題は ない	その他	不明・無回 答
20歳未満	15 100.0	11 73.3	5 33.3	1 6.7	1 6.7	8 53.3	6 40.0	1 6.7	- -	- -
20歳代	92 100.0	50 54.3	39 42.4	18 19.6	6 6.5	36 39.1	37 40.2	10 10.9	1 1.1	1 1.1
30歳代	134 100.0	67 50.0	39 29.1	18 13.4	9 6.7	60 44.8	45 33.6	18 13.4	6 4.5	2 1.5
40歳代	135 100.0	74 54.8	38 28.1	10 7.4	7 5.2	61 45.2	51 37.8	12 8.9	7 5.2	5 3.7
50歳代	173 100.0	101 58.4	50 28.9	19 11.0	14 8.1	65 37.6	59 34.1	14 8.1	5 2.9	8 4.6
60歳代	205 100.0	123 60.0	55 26.8	19 9.3	18 8.8	80 39.0	86 42.0	15 7.3	7 3.4	18 8.8
70歳以上	135 100.0	75 55.6	21 15.6	4 3.0	11 8.1	50 37.0	41 30.4	15 11.1	6 4.4	18 13.3
不明・無回答	11 100.0	2 18.2	- -	- -	- -	1 9.1	- -	2 18.2	- -	6 54.5

(注 1) 網掛けは、各年齢における上位 3 項目を示しています。

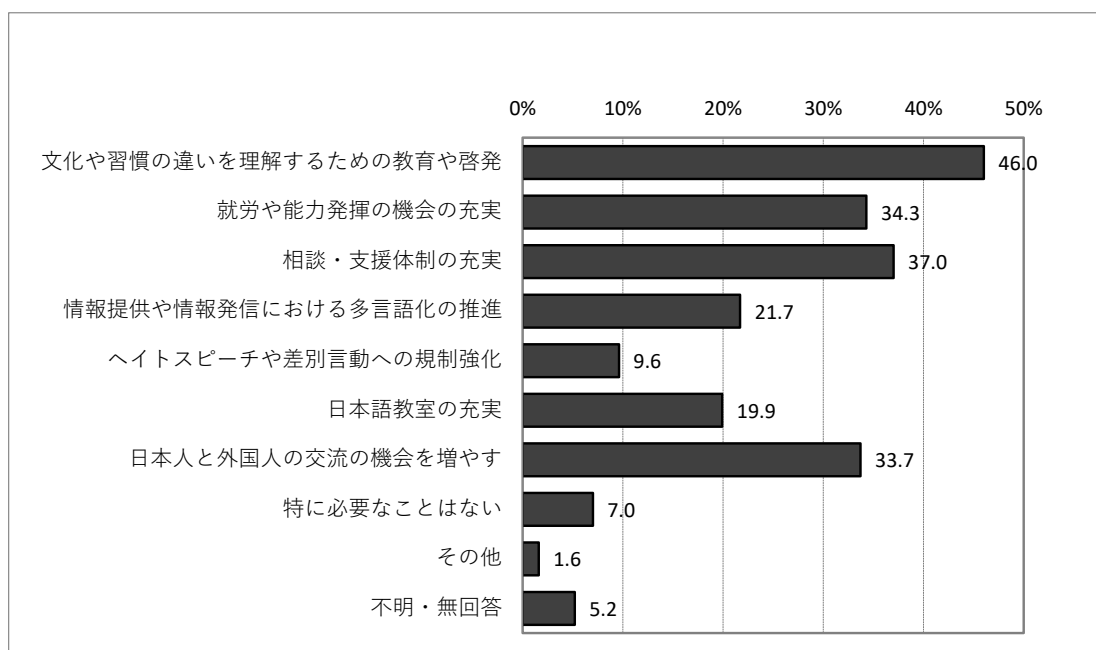
問 16 外国人の人権を守るために特に必要だと思うこと

複数回答（3つまで）

クロス集計：性別、年齢

「文化や習慣の違いを理解するための教育や啓発」が46.0%と最も高く、次いで「相談・支援体制の充実」が37.0%、「就労や能力発揮の機会の充実」が34.3%となっています。「その他」としては日本人と同等の権利を与えること、外国人労働者を保護することなどが挙げられています。（図表8－4）

図表8－4



【性別によるクロス集計】

性別に関わらず全体的な傾向は概ね同じです。一方、「日本人と外国人の交流の機会を増やす」は女性では上位3項目に入っていますが、男性では入っていません。(図表8-5)

図表 8 - 5

上段：度数 下段：％	合計	文化や習慣 の違いを理解するた めの教育や啓 発	就労や能力 発揮の機会 の充実	相談・支援 体制の充実	情報提供や 情報発信に おける多言 語化の推進
男性	413 100.0	196 47.5	141 34.1	148 35.8	78 18.9
女性	476 100.0	216 45.4	167 35.1	183 38.4	117 24.6
その他	2 100.0	- -	- -	1 50.0	- -
不明・無回答	9 100.0	2 22.2	1 11.1	1 11.1	- -

上段：度数 下段：％	ヘイトス ピーチや差 別言動への 規制強化	日本語教室 の充実	日本人と外 国人の交流 の機会を増 やす	特に必要な ことはない	その他	不明・無回 答
男性	56 13.6	81 19.6	119 28.8	39 9.4	10 2.4	14 3.4
女性	28 5.9	95 20.0	181 38.0	23 4.8	4 0.8	29 6.1
その他	1 50.0	2 100.0	1 50.0	- -	- -	- -
不明・無回答	1 11.1	1 11.1	2 22.2	1 11.1	- -	4 44.4

(注1) 網掛けは、各性別における上位3項目を示しています。

【年齢によるクロス集計】

「就労や能力発揮の機会の充実」は 20 歳代と 50 歳代、60 歳代では上位 3 項目に入っています。「相談・支援体制の充実」は 40 歳代から 70 歳以上では上位 3 項目に入っています。「情報提供や情報発信における多言語化の推進」は 30 歳代でのみ上位 3 項目に入っています。「日本人と外国人の交流の機会を増やす」は 50 歳代と 60 歳代を除く全ての年齢で上位 3 項目に入っています。（図表 8－6）

図表 8－6

上段：度数 下段：%	合計	文化や習慣 の違いを理 解するため の教育や啓 発	就労や能力 発揮の機会 の充実	相談・支援 体制の充実	情報提供や 情報発信に おける多言 語化の推進
20歳未満	15 100.0	9 60.0	2 13.3	4 26.7	3 20.0
20歳代	92 100.0	44 47.8	40 43.5	38 41.3	30 32.6
30歳代	134 100.0	65 48.5	39 29.1	39 29.1	43 32.1
40歳代	135 100.0	61 45.2	44 32.6	55 40.7	31 23.0
50歳代	173 100.0	71 41.0	61 35.3	63 36.4	39 22.5
60歳代	205 100.0	100 48.8	83 40.5	85 41.5	35 17.1
70歳以上	135 100.0	62 45.9	39 28.9	47 34.8	14 10.4
不明・無回答	11 100.0	2 18.2	1 9.1	2 18.2	- -

上段：度数 下段：%	ヘイトス ピーチや差 別言動への 規制強化	日本語教室 の充実	日本人と外 国人の交流 の機会を増 やす	特に必要な ことはない	その他	不明・無回 答
20歳未満	4 26.7	6 40.0	8 53.3	- -	- -	- -
20歳代	8 8.7	13 14.1	39 42.4	6 6.5	1 1.1	2 2.2
30歳代	10 7.5	28 20.9	56 41.8	11 8.2	1 0.7	4 3.0
40歳代	9 6.7	23 17.0	46 34.1	8 5.9	4 3.0	5 3.7
50歳代	14 8.1	32 18.5	48 27.7	13 7.5	3 1.7	8 4.6
60歳代	23 11.2	42 20.5	64 31.2	12 5.9	5 2.4	11 5.4
70歳以上	17 12.6	33 24.4	40 29.6	10 7.4	- -	14 10.4
不明・無回答	1 9.1	2 18.2	2 18.2	3 27.3	- -	3 27.3

（注 1）網掛けは、各年齢における上位 3 項目を示しています。

9 インターネット上での人権侵害等（問 17～問 18）

9では、インターネット上での人権についての問題点と、インターネット上での人権侵害の解決に必要なことを尋ねています。

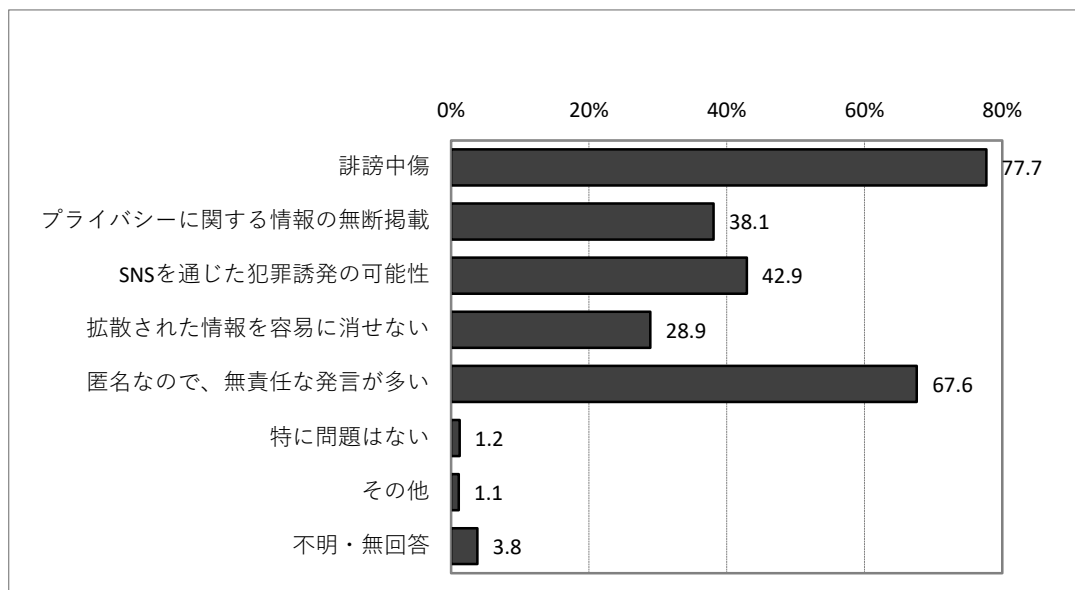
問 17 インターネット上での人権侵害に関して特に問題があると思うこと

複数回答（3つまで）

クロス集計：性別、年齢

「誹謗中傷」が 77.7%と最も高く、次いで「匿名なので、無責任な発言が多い」が 67.6%、「SNS を通じた犯罪誘発の可能性」が 42.9%となっています。「その他」としてはインターネットについてよく理解せずに使っていること、子どもに悪影響があることなどが挙げられています。また、回答者がインターネットを使っていないなどの理由でわからないという趣旨の回答も一定数あります。（図表 9－1）

図表 9－1



【性別によるクロス集計】

性別に関わらず全体的な傾向は概ね同じです。(図表 9－2)

図表 9－2

上段：度数 下段：％	合計	誹謗中傷	プライバシーに関する情報の無断掲載	SNSを通じた犯罪誘発の可能性	拡散された情報を容易に消せない	匿名なので、無責任な発言が多い	特に問題はない	その他	不明・無回答
男性	413 100.0	317 76.8	144 34.9	172 41.6	130 31.5	288 69.7	4 1.0	7 1.7	11 2.7
女性	476 100.0	378 79.4	196 41.2	214 45.0	127 26.7	317 66.6	6 1.3	3 0.6	19 4.0
その他	2 100.0	1 50.0	- -	- -	- -	2 100.0	- -	- -	- -
不明・無回答	9 100.0	3 33.3	3 33.3	- -	3 33.3	1 11.1	1 11.1	- -	4 44.4

(注 1) 網掛けは、各性別における上位 3 項目を示しています。

【年齢によるクロス集計】

20 歳代から 40 歳代では「プライバシーに関する情報の無断掲載」が上位 3 項目に入っていますが、「SNS を通じた犯罪誘発の可能性」は入っていません。一方、50 歳代以上ではその逆となっています。(図表 9－3)

図表 9－3

上段：度数 下段：％	合計	誹謗中傷	プライバシーに関する情報の無断掲載	SNSを通じた犯罪誘発の可能性	拡散された情報を容易に消せない	匿名なので、無責任な発言が多い	特に問題はない	その他	不明・無回答
20歳未満	15 100.0	12 80.0	6 40.0	10 66.7	5 33.3	5 33.3	- -	- -	- -
20歳代	92 100.0	77 83.7	41 44.6	40 43.5	28 30.4	66 71.7	1 1.1	- -	- -
30歳代	134 100.0	109 81.3	64 47.8	57 42.5	42 31.3	88 65.7	1 0.7	2 1.5	- -
40歳代	135 100.0	104 77.0	60 44.4	45 33.3	50 37.0	94 69.6	2 1.5	1 0.7	5 3.7
50歳代	173 100.0	143 82.7	67 38.7	80 46.2	43 24.9	124 71.7	2 1.2	1 0.6	5 2.9
60歳代	205 100.0	163 79.5	61 29.8	96 46.8	61 29.8	145 70.7	- -	2 1.0	5 2.4
70歳以上	135 100.0	88 65.2	41 30.4	58 43.0	28 20.7	84 62.2	4 3.0	4 3.0	14 10.4
不明・無回答	11 100.0	3 27.3	3 27.3	- -	3 27.3	2 18.2	1 9.1	- -	5 45.5

(注 1) 網掛けは、各年齢における上位 3 項目を示しています。

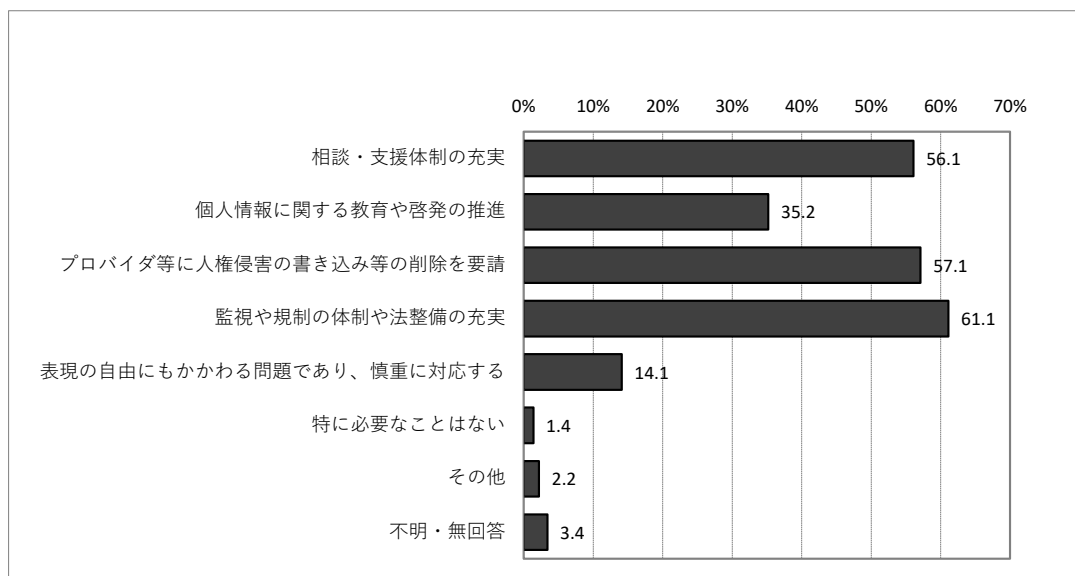
問 18 インターネット上での人権侵害の解決に特に必要だと思うこと

複数回答（3つまで）

クロス集計：性別、年齢

「監視や規制の体制や法整備の充実」が 61.1%と最も高く、次いで「プロバイダ等
人権侵害の書き込み等の削除を要請」が 57.1%、「相談・支援体制の充実」が 56.1%と
なっています。「その他」としては SNS 等における匿名での書き込みの制限、教育の充
実、人権侵害をした側に対する罰則の強化などが挙げられています。また、回答者がイ
ンターネットを使っていないなどの理由でわからないという趣旨の回答も一定数あり
ます。（図表 9－4）

図表 9－4



【性別によるクロス集計】

性別に関わらず全体的な傾向は概ね同じです。(図表 9－5)

図表 9－5

上段：度数 下段：%	合計	相談・支援 体制の充実	個人情報に 関する教育 や啓発の推 進	プロバイダ 等の人権侵 害の書き込 み等の削除 を要請	監視や規制 の体制や法 整備の充実	表現の自由 にもかかわ る問題であ り、慎重に 対応する	特に必要な ことはない	その他	不明・無回 答
男性	413 100.0	215 52.1	128 31.0	238 57.6	265 64.2	59 14.3	8 1.9	14 3.4	9 2.2
女性	476 100.0	288 60.5	187 39.3	271 56.9	282 59.2	67 14.1	4 0.8	6 1.3	18 3.8
その他	2 100.0	1 50.0	- -	1 50.0	1 50.0	1 50.0	- -	- -	- -
不明・無回答	9 100.0	1 11.1	2 22.2	4 44.4	2 22.2	- -	1 11.1	- -	4 44.4

(注 1) 網掛けは、各性別における上位 3 項目を示しています。

【年齢によるクロス集計】

年齢に関わらず全体的な傾向は概ね同じです。一方、40 歳代では「プロバイダ等
人権侵害の書き込み等の削除を要請」と「監視や規制の体制や法整備の充実」の割合が
他の年齢に比べると高いです。(図表 9－6)

図表 9－6

上段：度数 下段：%	合計	相談・支援 体制の充実	個人情報に 関する教育 や啓発の推 進	プロバイダ 等の人権侵 害の書き込 み等の削除 を要請	監視や規制 の体制や法 整備の充実	表現の自由 にもかかわ る問題であ り、慎重に 対応する	特に必要な ことはない	その他	不明・無回 答
20歳未満	15 100.0	8 53.3	9 60.0	7 46.7	7 46.7	6 40.0	- -	- -	- -
20歳代	92 100.0	60 65.2	35 38.0	48 52.2	49 53.3	27 29.3	1 1.1	2 2.2	- -
30歳代	134 100.0	70 52.2	61 45.5	76 56.7	81 60.4	20 14.9	2 1.5	3 2.2	1 0.7
40歳代	135 100.0	78 57.8	50 37.0	87 64.4	94 69.6	17 12.6	1 0.7	3 2.2	2 1.5
50歳代	173 100.0	97 56.1	58 33.5	103 59.5	114 65.9	15 8.7	2 1.2	3 1.7	4 2.3
60歳代	205 100.0	120 58.5	63 30.7	120 58.5	132 64.4	25 12.2	2 1.0	6 2.9	5 2.4
70歳以上	135 100.0	70 51.9	40 29.6	69 51.1	70 51.9	17 12.6	4 3.0	3 2.2	14 10.4
不明・無回答	11 100.0	2 18.2	1 9.1	4 36.4	3 27.3	- -	1 9.1	- -	5 45.5

(注 1) 網掛けは、各年齢における上位 3 項目を示しています。

10 性的少数者（LGBT 等）の人権（問 19～問 20）

10 では、性的少数者（LGBT 等）の人権について問題点と擁護に必要なことを尋ねています。

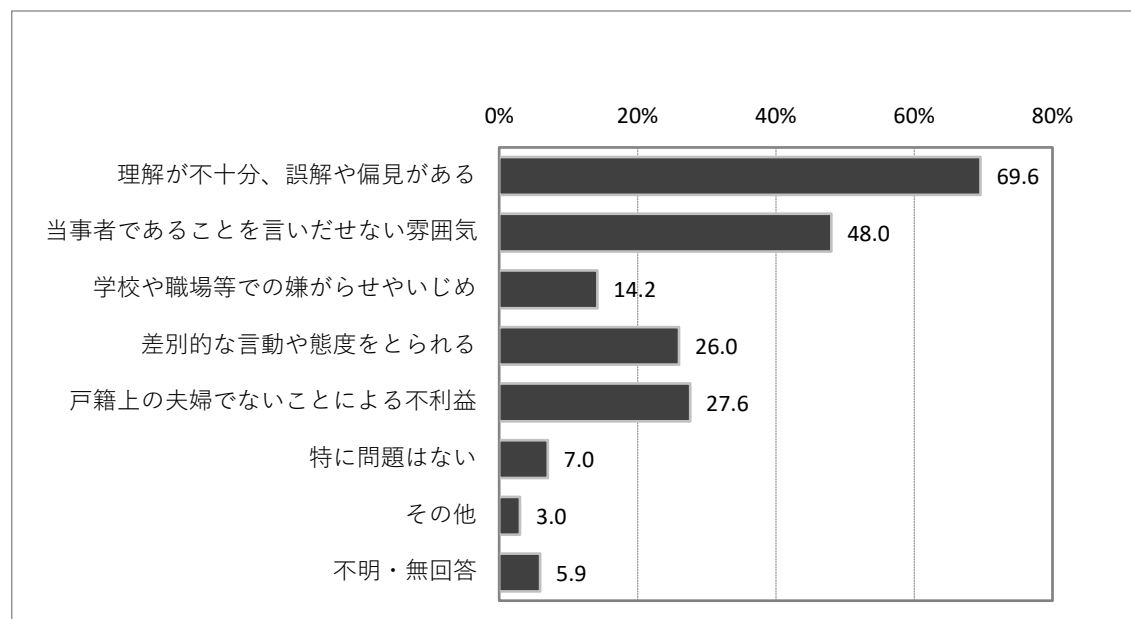
問 19 性的少数者（LGBT 等）の人権に関して特に問題があると思うこと

複数回答（3つまで）

クロス集計：性別、年齢

「理解が不十分、誤解や偏見がある」が 69.6%と最も高く、次いで「当事者であることを言い出せない雰囲気」が 48.0%、「戸籍上の夫婦でないことによる不利益」が 27.6%となっています。「その他」については、回答者の身近に性的少数者（LGBT 等）がいないなどの理由でわからないという趣旨の回答が主なものとなっています。（図表 10－1）

図表 10－1



【性別によるクロス集計】

男女ともに「理解が不十分、誤解や偏見がある」の割合が最も高く、次いで「当事者であることを言いたせない雰囲気」の割合が高くなっています。また、「当事者であることを言いたせない雰囲気」と「戸籍上の夫婦でないことによる不利益」については男性よりも女性の方が高くなっています。一方、「差別的な言動や態度をとられる」については男性では上位3項目に入っていますが、女性では入っていません。(図表10－2)

図表10－2

上段：度数 下段：%	合計	理解が不十分、 誤解や偏見があ る	当事者であ ることを言 いたせない 雰囲気	学校や職場 等での嫌が らせやいじ め	差別的な言 動や態度を とられる	戸籍上の夫婦で ないことによる 不利益	特に問題は ない	その他	不明・無回答
男性	413 100.0	276 66.8	183 44.3	63 15.3	110 26.6	96 23.2	39 9.4	20 4.8	19 4.6
女性	476 100.0	346 72.7	248 52.1	64 13.4	123 25.8	152 31.9	23 4.8	7 1.5	29 6.1
その他	2 100.0	2 100.0	1 50.0	1 50.0	- -	- -	- -	- -	- -
不明・無回答	9 100.0	2 22.2	- -	- -	1 11.1	- -	1 11.1	- -	5 55.6

(注1) 網掛けは、各性別における上位3項目を示しています。

【年齢によるクロス集計】

30 歳代から 50 歳代の結果には、他の年齢との違いが見られます。30 歳代から 50 歳代では「差別的な言動や態度をとられる」は上位 3 項目に入っていませんが、「戸籍上の夫婦でないことによる不利益」は上位 3 項目に入っています。(図表 10－3)

図表 10－3

上段：度数 下段：%	合計	理解が不十分、誤解や偏見がある	当事者であることを言いたせない雰囲気	学校や職場等での嫌がらせやいじめ	差別的な言動や態度をとられる	戸籍上の夫婦でないことによる不利益	特に問題はない	その他	不明・無回答
20歳未満	15 100.0	13 86.7	9 60.0	1 6.7	7 46.7	2 13.3	- -	1 6.7	- -
20歳代	92 100.0	72 78.3	55 59.8	23 25.0	32 34.8	29 31.5	3 3.3	3 3.3	2 2.2
30歳代	134 100.0	101 75.4	67 50.0	26 19.4	42 31.3	46 34.3	11 8.2	1 0.7	- -
40歳代	135 100.0	102 75.6	71 52.6	16 11.9	31 23.0	43 31.9	7 5.2	2 1.5	4 3.0
50歳代	173 100.0	107 61.8	78 45.1	20 11.6	38 22.0	50 28.9	18 10.4	5 2.9	8 4.6
60歳代	205 100.0	155 75.6	92 44.9	24 11.7	60 29.3	54 26.3	10 4.9	6 2.9	13 6.3
70歳以上	135 100.0	73 54.1	60 44.4	18 13.3	24 17.8	24 17.8	12 8.9	9 6.7	20 14.8
不明・無回答	11 100.0	3 27.3	- -	- -	- -	- -	2 18.2	- -	6 54.5

(注 1) 網掛けは、各年齢における上位 3 項目を示しています。

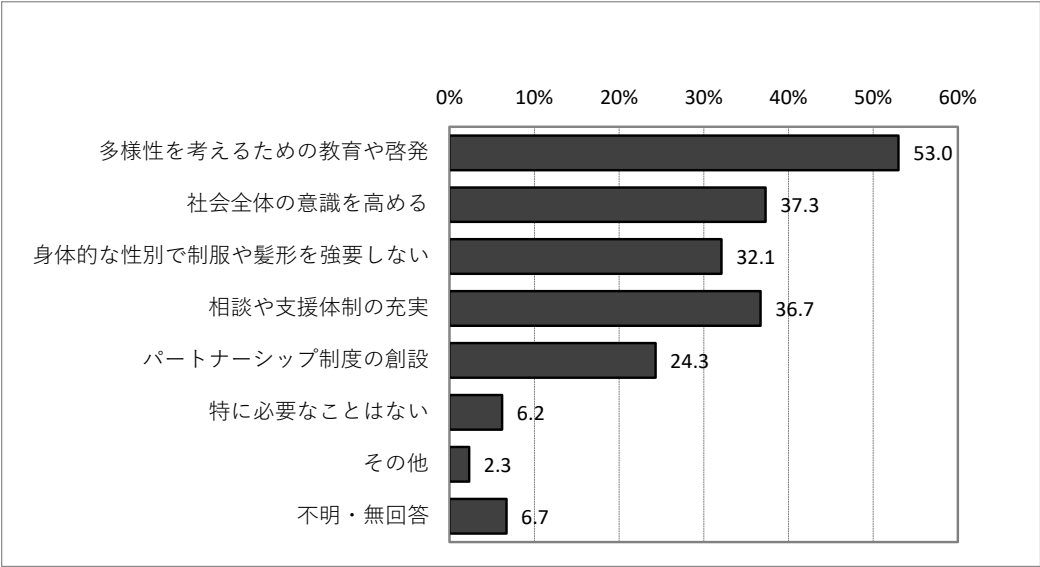
問 20 性的少数者（LGBT 等）の人権の人権を守るために特に必要なこと

複数回答（3つまで）

クロス集計：性別、年齢

「多様性を考えるための教育や啓発」が 53.0%と最も高く、次いで「社会全体の意識を高める」が 37.3%、「相談や支援体制の充実」が 36.7%となっています。「その他」としては性的少数者の人権を保護する制度の充実、過度な注目や支援をしないことなどが挙げられています。（図表 10－4）

図表 10－4



【性別によるクロス集計】

性別に関わらず全体的な傾向は概ね同じです。（図表 10－5）

図表 10－5

上段：度数 下段：%	合計	多様性を考 えるための 教育や啓発	社会全体の意 識を高める	身体的な性別 で制服や髪形 を強要しない	相談や支援 体制の充実	パートナ ーシップ制度 の創設	特に必要 なことは ない	その他	不明・ 無回答
男性	413 100.0	219 53.0	149 36.1	127 30.8	147 35.6	84 20.3	35 8.5	14 3.4	26 6.3
女性	476 100.0	256 53.8	186 39.1	161 33.8	182 38.2	134 28.2	20 4.2	6 1.3	28 5.9
その他	2 100.0	1 50.0	1 50.0	1 50.0	- -	1 50.0	- -	1 50.0	- -
不明・無回答	9 100.0	1 11.1	- -	- -	1 11.1	- -	1 11.1	- -	6 66.7

（注 1）網掛けは、各性別における上位 3 項目を示しています。

【年齢によるクロス集計】

「身体的な性別で制服や髪形を強要しない」は若年層から中年層を中心に割合が相対的に高くなっています。一方、「相談や支援体制の充実」は中年層から高齢者を中心に割合が相対的に高くなっています。また、「パートナーシップ制度の創設」は30歳代でのみ上位3項目に入っています。(図表10－6)

図表 10－6

上段：度数 下段：%	合計	多様性を考 えるための 教育や啓発	社会全体の 意識を高め る	身体的な性 別で制服や 髪形を強要 しない	相談や支援 体制の充実	パートナ ーシップ制度 の創設	特に必要な ことはない	その他	不明・無回 答
20歳未満	15 100.0	12 80.0	2 13.3	8 53.3	5 33.3	4 26.7	- -	- -	- -
20歳代	92 100.0	47 51.1	37 40.2	46 50.0	34 37.0	36 39.1	2 2.2	4 4.3	2 2.2
30歳代	134 100.0	76 56.7	47 35.1	60 44.8	44 32.8	49 36.6	9 6.7	3 2.2	3 2.2
40歳代	135 100.0	77 57.0	39 28.9	46 34.1	57 42.2	41 30.4	8 5.9	1 0.7	5 3.7
50歳代	173 100.0	90 52.0	73 42.2	46 26.6	54 31.2	41 23.7	13 7.5	3 1.7	8 4.6
60歳代	205 100.0	109 53.2	92 44.9	51 24.9	90 43.9	34 16.6	10 4.9	6 2.9	15 7.3
70歳以上	135 100.0	63 46.7	46 34.1	32 23.7	45 33.3	14 10.4	13 9.6	3 2.2	21 15.6
不明・無回答	11 100.0	3 27.3	- -	- -	1 9.1	- -	1 9.1	1 9.1	6 54.5

(注1) 網掛けは、各年齢における上位3項目を示しています。